

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700083		
法人名	医療法人財団 友朋会		
事業所名	グループホーム千寿荘(寿A・B)		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919		
自己評価作成日	平成30年1月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年2月15日	外部評価確定日	平成30年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. その人らしさを尊重し生活支援を行う上で自己決定権を尊重した援助方法を大切にしている。</p> <p>2. 芸術療法士が絵画療法や陶芸療法に関わり、利用者様は生き生きとした表情で作品作りに取り組まれている。またご家族に作品を見て頂き、残存能力を知ってもらおうと共に日頃の活動について理解してもらっている。</p> <p>3. 季節に応じた野外活動を行い、季節感を感じてもらっている。毎年行う日帰り旅行や餅つき会では利用者様とご家族のふれあいが深まり、良い思い出作りが出来ている。</p> <p>4. 敬老会後に開催する家族懇談会では主治医をはじめ、他職種が参加しご家族の質問や要望に応じている。</p> <p>5. 年間を通して行った行事や日頃の様子を写真に収め、敬老会のスライドショーで紹介し利用者様やご家族に見て頂き楽しんでもらい理解を深めてもらっている。</p> <p>6. グループホーム千寿荘新聞「鶴亀たより」を発行し、利用者様の生活が見えるようにしている。</p> <p>7. 認知症病棟での経験豊富な職員が配置され、各ユニットに看護師が1名ずつ常勤で配置されている他、介護職の6割以上を介護福祉士が占めるなど質の高いケアを提供している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、広い敷地内に複数ある法人施設のひとつとして建てられている。業務に関する事や緊急事態にも法人全体として協力体制が出来ている。また地域との交流を大切にしたり取り組みもあり、秋祭りに近隣住民も招く事や、年に一度、介護センターを開放し専門知識を活かした貢献が出来るよう努めている事などが挙げられる。事業所としての特長は個別援助を旨とし、利用者本位のケアを実践している点である。職員同士のコンビネーションが良好である事や、互いに接し方等をアドバイスし合っている事が功を奏している。また3ユニットに人員の手薄な時間があればユニット間での応援をし、利用者には穏かに過ごしてもらえよう努めている。各ユニットに職員レク等の計画をするリフレッシュ担当がいることも、働く職場として配慮されている一面である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や基本方針を朝のミーティング時に唱和し、念頭に置き個別にあった関わりをしている。食材の買物、調理、農園芸、活動等、日々その人ができることへの取り組みを実践している。	左に同じ	左に同じ	20年前、事業所を立ち上げた際に創り上げられた基本理念は現在もそのままに引き継がれている。毎朝の唱和や目に付く場所への掲示で意識付けを図っている。唱和に対する評価も行っていることは職員の意識の高さが窺える。更に基本方針として掲げた5項目は守秘義務や人権尊重にも触れている。利用者の想いに沿った個別援助は穏かな表情となつて表れ、理念や指針は常に立ち戻る基本として浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域の老人会、住民にメンバーとして入って頂き、行事のお知らせをして参加の呼びかけも行っている。毎年嬉野市役所へ連絡し、文化祭への出品展示の確認を行い作品コーナーも設けてもらっている。そのコーナーには日頃利用者様が作成された作品を展示し、見学に行くのを楽しみにされている。小規模多機能ホーム「孝心の里」とグランドゴルフの交流会を行っている。	左に同じ	左に同じ	事業所は同法人の施設が集まる広い敷地内にあり、その中で完了できるだけ要素も揃っている。しかし法人として地域との繋がりを大切にしており積極的な交流も図っている。毎年5月の看護の日には介護センターを開放し、気軽に立ち寄れる場所として専門知識を活かした活動も行っている。また秋祭りには近隣住民も招き賑わっている。地元の情報は運営推進会議の折にメンバーでもある区長や老人会からもたらされ、地域の一員として役に立つことがあればと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の作品展示会に運営推進委員から地域の方に参加を呼び掛けてもらったが参加は得られなかった。今後も継続して取り組んでいく。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況や行事報告、今後の行事予定などを報告し、それに対する意見、提案などを伺っている。また利用者と一緒に食事や会話をする時間を設けている。献立についての感想や意見を聞いたりしている。外部評価の結果についても報告し、意見を出してもらい次に活かしている。	左に同じ	左に同じ	会議時間は約30分、その後メンバーは各ユニットに分かれて昼食という流れである。家族代表3名はユニット毎に参加できる方をお願いしている。貴重な機会を、事業所からの報告のみではなく有意義な意見交換の場となるよう努めている。会議には医師も同席しているため、メンバーからは認知症について質問が出たり、事業所はバスレクの行き先等で情報を得たりしている。メンバーから率直な意見を出してもらえるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の介護相談員派遣事業を受け、利用者から意見などを聞いて頂き、気軽に話し合っておられる。利用者からの意見を聞かれた後には、介護相談員と職員とで情報交換を行っている。嬉野市地域包括支援センターとは運営推進会議以外でも、ケースワーカーを通じて情報交換を行っている。	左に同じ	左に同じ	行政側とは運営推進会議でも顔見知りであり、実直に対応してもらえる関係は築いている。問い合わせ等には法人内の部署が答えてくれることもあり、行政側への件数としては少ない。また年2回ほど訪れる介護相談員は各ユニット30分程度の滞在をし、気付き等を伝えてくれている。今後、利用者との橋渡し役としても期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は併設病院の身体拘束廃止委員会に出席し、職員へ伝達講習を行い理解を深めている。また研修会や勉強会へも参加している。基本方針に身体拘束をしないことを明記すると共に毎朝業務開始前に唱和し声を出して意識づけを行っている。屋外への散歩等個別対応して利用者の精神的拘束感を軽減出来るようにしているが利用者様の状況に応じて玄関の施錠をする場合がある。	左に同じ	左に同じ	法人では毎月、身体拘束廃止委員会があり、全部門での現状を持ち寄り話し合っている。職員の研修や勉強会も実施され、身体拘束の内容やその弊害は概ね理解していると考えられるが、管理者としては折りに触れ更に説いていく事としている。千寿荘では終日、玄関に施錠があり、寿側もチャイムやセンサーを設置している。建物の構造上、止むを得ないとしつつも工夫や対策は行っている。できるだけ一緒に屋外(庭先であっても)へ出たり、寿側では雨天でも別棟の院内の廊下で散歩をする等々、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	友朋会の高齢者虐待防止・対応マニュアルの学習会や『不適切行為に対するアンケート』を行い振り返りを行っている。また毎日入浴時に全身の観察を行っている。現在家族からの意見・苦情はない。毎朝業務前に接遇に関する標語を唱和し、また職員間でヒヤリハットの事例を基に検討会を行い周知している。	左に同じ	左に同じ		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は弁護士が出席される併設施設の人権擁護委員会に参加し、事例をもとに話し合う機会がある。また職員は看護部教育委員会の人権に関する研修会に参加し、他の職員と共有している。	左に同じ	左に同じ		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学時にリーフレットを渡し簡単な説明を行っている。入所時には利用者、ご家族と十分に話し合える時間を取っている。必要に応じて千寿荘担当の精神保健福祉士と連携を図っている。また介護保険改定時には利用者、ご家族に改訂した利用説明書を提示し、説明を行い了解を得ている。	左に同じ	左に同じ		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の流れを掲示し意見箱も設置している。公的相談窓口のマニュアルも掲示している。介護相談員の訪問を受け、利用者から話を聞いて頂いているが、現在苦情は発生していない。訪室時に利用者様から生活環境面等について困った事はないか尋ねている。ご家族の面会時に利用者様を交え近況の情報提供を行っている。年1回のアンケート調査や家族懇談会でのご家族の意見を運営に反映させている。	左に同じ	左に同じ	家族の面会は少ない。利用料支払いを敢えて持参してもらったり、日用品の補充を頼むことで来所を促している。毎月送付される明細書には利用者の近況も同封しているが、直接話ができる機会を大切にしている。お茶などを出し、ゆっくり過ごしてもらえよう配慮しながら利用者の日頃の言葉なども伝えている。なかなか来られない家族には電話も掛け、意向や思いが汲み取れるよう努めている。出された意見には前向きに活かす体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者会議を月に2回、千寿荘会議、ユニット会議を月1回開催し、運営に関する意見や提案を出してもらい検討している。議事録を記載し全職員に周知できるようにしている。意見を述べる機会を作り相互理解につなげている。管理者は法人の定例運営会議で開設者との意見交換を行う機会がある。また事務局長や事務長、看護部長、担当師長が巡回時に職員の意見を聞く機会がある。	左に同じ	左に同じ	約一時間の職員会議はユニット毎に開かれている。今月議題になった事は翌月の会議で必ず評価もしている。業務の見直しや利用者の行動に対するケア等も話し合われる場である。会議をスムーズに進める工夫もあり、内容の事前周知や取り上げてほしいことを書くメモやノートが用意されている。それにより自分の考えをまとめておくことや、当日休みの人などは意見を伝えておくことも出来る。また当外部評価の自己評価部分を全員に書いてもらうことで各々に自覚と積極性も生まれている。法人に現場の声を伝える機会もあり、上部にも届く体制である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	併設施設全体の労働安全衛生委員会の「メンタルヘルスサポート体制」を示し、相談はいつでも行えるように掲示している。労働安全衛生委員会の職場巡視の際にも設備面や労働環境全般に対して要望を述べる機会がある。また併設施設の看護部長が毎年6月に職場環境調査や職場ニーズ調査を行い、職員から直接意見を収集できる仕組みがある。代表者である理事長には運営会議の場や毎月の管理日誌、種々の書類を提出している。年度末に人事考課システムがあり、職員個々の実績評価をされている。院外の研修を希望する職員に対し時間や費用などの支援が整備されている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアの質の向上の為に認知症介護実践者研修、介護支援専門員研修に該当者を参加させている。また介護福祉士・介護支援専門員の資格取得に向けての支援や院内外への研修会に参加できる様に職員の人員を確保している。また看護、介護実践能力評価表に基づき基本的な知識・技術・態度が身についているかを自己評価した上で他者評価を行い段階的なレベルアップに努めている。	左に同じ	左に同じ		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県グループホーム協会主催の研修会に今年度は参加できていない。鹿島・藤津地域リハネットワーク研究会の研修会などに参加して、地域の同業者から情報を得たり、サービスの質の向上への取り組みを行っている。	左に同じ	左に同じ		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や困っていることに対し、可能な限り関わりを多く持ち緩和に努めている。特に初期はユニット責任者が関わり、状況を把握し他のスタッフと共有することで安心できるように努めている。ご家族に対しても面会や電話での関わりなど協力を頂いている。	左に同じ	左に同じ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの不安や要望については親身になって聞き、電話や文書で返答している。必要に応じて介護支援専門員や担当の精神保健福祉士にも相談し、ユニット責任者と共に話し合いの場を設けている。ご家族の思いや状況を理解し、いつでも相談しやすい雰囲気作りに努め信頼関係の向上に努めている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族のニーズを基に作成したケアプランに沿ってサービスを提供している。必要に応じて症状や介護度によって受けられるサービスも視野に入れ、ソーシャルワーカーやケアマネジャーと共にご家族の支援にあたっている。	左に同じ	左に同じ		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で、感謝、共感の言葉を使うようにしている。能力に応じた役割をお願いし、職員と一緒に会話を大切にしている。本人の意思や希望を尋ね、気持ちを尊重するとともに意欲アップにつなげている。	左に同じ	左に同じ		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ毎月郵送している健康についての「お知らせ」に行事案内を加え参加を呼びかけている。参加されたご家族と利用者様、職員は和気藹々とした雰囲気の中で交流を深めている。また面会時には近況報告等も行っている。行事や利用者様の生活状況が分かるように千寿荘新聞「鶴亀たより」を定期的にご家族へ郵送したり、敬老会では日々の様子や年間の行事の写真をスライドショーとして紹介し、利用者様、ご家族に楽しんで頂き理解を深めている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の病院受診を希望される方へは家族に協力してもらい受診されている。また買い物は行きつけの店に同行してもらい、美容室も継続して利用できるように支援している。	左に同じ	左に同じ	入居までの人間関係等は本人や家族はもとより、担当のケアマネジャーや利用していたサービス事業所、また入院先からであれば病院関係者からも話を聞き情報を集めている。具体的な支援として電話の取次ぎはいつでも可能であり、盆正月や法事等での帰宅(宿泊もあり)、家族との墓参りなどがそれである。行きつけの美容院へ通い続ける人や、職員の助けも借りながら年賀状や暑中見舞い状、絵手紙を出す事もある。職員は関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係を考慮し、利用者間関係が良好に保てるようにテーブルの席や入浴の順番にも配慮している。おやつ時間も設定し交流の場としている。一人で歩けない利用者様の下膳をして頂いたり、利用者様の能力に応じてお互いに助け合える関係作りを支援している。	左に同じ	左に同じ		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設医療機関への入院の為、退荘された後訪問し病状を尋ねたり、他の利用者と共に見舞いに立ち寄りしている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者1~2名に対し職員1名の担当制も取り入れ、利用者の思いや希望など意向の把握に努めている。料理の下準備として魚をさばいたり野菜を刻んだり、食後の後片付け等、生活リハビリとして自立支援をめざしている。	左に同じ	左に同じ	利用者が一番話をしてくれるのは一対一でいる時が多い。居室を訪ねて話をするひとときや、一緒に台所で準備などを手伝ってもらう時である。発語の少ない利用者とは日々のケアの中で時間をかけて傾聴に努めている。聞き取ったことは観察記録に記したり、職員会議の折に伝えられ共有を図っている。また個別活動として、箱作りなど得意なことや手伝ってもらうことが表にまとめてあり、利用者それぞれがやりがいを持って過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より生活史として情報収集し介護計画に活かしている。利用者様の状態やご家族その他利用者様を取り巻く環境について、毎年データベースの見直しを行い、最新の情報を基に介護計画に活かしている。	左に同じ	左に同じ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	援助項目に沿って日々の記録、また各勤務帯で利用者の状況がわかる記録を行っている。サービス計画書の6ヶ月毎の評価、3ヶ月毎のモニタリング、サービス担当者会議で他職種の情報も含め把握・評価できるようにしている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様及びご家族から面会の際にサービスに関する要望等を聞いている。サービス担当者会議では利用者様、ご家族、計画作成担当者、受け持ち職員、精神保健福祉士、芸術療法士などの出席を得て、ニーズや課題、援助内容を検討している。担当医は殆ど参加できず、参加出来ない職員は書面での参加としている。	利用者様及びご家族から面会の際にサービスに関する要望等を聞いている。サービス担当者会議では利用者様、ご家族、担当医、計画作成担当者、受け持ち職員、精神保健福祉士、芸術療法士などの出席を得て、ニーズや課題、援助内容を検討している。担当医は医療面その他についても気軽に相談できるようにしている。	左に同じ	ケアプランの設定期間は6ヶ月毎、モニタリングは3ヶ月毎としているが、変化があれば臨機応変に見直しを行っている。本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の意向は来所時や電話での会話から汲み取っている。現状維持を願う家族は多く、サービス担当者会議には必ず同席している。家族への事前アンケートには、職員が担当制であることや、寿側では医師の同席もあることで、細やかな状況説明が受けられると答えている。またオリジナルの援助記録簿によりケアプランの実施状況も把握しやすくなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書に沿ったケアの内容を共有しながら実践している。実践した内容は援助記録に残し、3ヶ月毎に記録している日常生活動作能力経過表の評価と共に必要に応じて朝のミーティングやユニット会議で提案し介護計画の見直しに繋げている。	左に同じ	左に同じ		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様に対し、その時々に応じて内科や眼科など受診しやすい環境である。行事にボランティアの方に参加して頂いたりしている。散歩や外食など積極的に取り組み、また地域の行事へも参加している。	左に同じ	左に同じ		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の法人内への買い物、理美容室を利用している。また併設施設内の喫茶店で自分の好きなものを選んでもらい、飲食を楽しんでもらっている。市報「うれしの」「県民だより」で情報を提供し、地域の行事への参加につなげている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への受診が必要となった場合は本人、ご家族の希望のかかりつけ医にご家族の協力を得て受診してもらっている。また協力医療機関である嬉野温泉病院や宮原歯科医院と連携を図っている。	左に同じ	左に同じ		もともと母体病院の患者だった人が殆どである。病歴を知ってもらえていることや顔馴染みの医師であることで安心感もある。診療科目も多く、院内であれば職員が付き添い、受診結果は変化がなければ定期のお知らせで伝えている。院外は家族の付き添いとなるが、サマリ(ケア記録など)を持参してもらうことで日常の様子が分かるようにしている。母体病院だけではなく、希望する病院を選び診療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに1名の看護師を配置し、3ユニット全体で毎日最低1名以上の看護師が勤務している。また法人の日当直師長や外来看護師の協力も受けている。日常的な健康管理を行い身体的、精神的状況の把握に努めている。介護職員は看護師と連携を図り、情報の報告、指示、助言を受け、必要な対応を行っている。	左に同じ	左に同じ			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設施設に利用者様が入院された場合は、職員が面会に行き、病棟スタッフとの情報交換を行い、回復状況を見て再入所可能な場合は早期に退院出来るようにしている。併設医療機関以外に入院の場合は地域連携室と連携し、診療情報提供書による情報提供を行っている。	左に同じ	左に同じ			

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用説明書に重度化した場合の対応について明記している。入所時に利用者様・ご家族に説明し、ご意見を聞きながら方針を共有している。急変時対応希望書に心停止や呼吸停止、外傷などによりご本人との意思疎通が取れなくなった時や、ご家族とすぐ連絡がつかない場合の対応について具体的な項目を選択して頂きサインを得ている。ご家族の要望を取り入れるため併設施設や地域の医療機関との連携を図っている。	左に同じ	左に同じ	事業所では看取りは行っていない。入居契約時にその方針を説明すると共に、急変時対応希望書で具体的な項目を示し共有を図っている。同じ敷地内に母体病院や施設等もあり、希望を聞きながら想いに応えようとしている。体調の変化に伴い、何度でも話し合いを重ねることで納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置用物品の整備と使用方法の研修を行い、応急手当のマニュアルや併設病院への緊急連絡網を明示し活用できるようにしている。応急処置ができるように応急手当マニュアルを整備している。AEDや異物除去用吸引器の取り扱いについては、職員全員が併設病院の研修や伝達講習で使用できるようにしている。急変時の対応(連絡を含む)がスムーズに行えるよう定期的に学習会を実施している。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人全体の火災・災害訓練に参加し、避難における知識、技術を学んでいる。またホーム独自でも定期的に初期消火、通報・連絡、避難誘導訓練を行っている。地域との連携については併設病院の協力のほか、法人全体の火災・災害訓練に嬉野医療センターも参加され共に協力体制ができている。火災通報装置、またスプリンクラーが設置されている。</p>	左に同じ	左に同じ	<p>毎年9月1日の防災の日には法人全体で訓練を行い、消防署も立ち会っている。自然災害を想定したマニュアルもある。事業所独自や18時半からの夜間訓練も含めると年に複数回の避難訓練を行っている。利用者は玄関先や非常階段側への避難を体験している。広い敷地内に母体病院をはじめ複数の施設があり協力体制も整っている。居室から退室済みの合図はドアに付けた家紋を引き抜くことと決めており、毛布等を使った避難・救護も試みている。職員は消火器や屋内消火栓、投げる消火剤等の使い方も承知しており、本年3月からは火災報知機が作動すれば自動的に通報するシステムに移行される。非常食や水、寒さを凌ぐ物は法人全体として備蓄しており、課題や反省点の指摘があれば速やかに改善され全員に周知している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方針に「人権擁護」を掲げ、接遇に関する標語を毎月更新し、毎朝ミーティングで唱和している。利用者様の人権尊重を意識した関わりが出来るように努めている。併設施設の教育委員会主催の人権擁護に関する研修に参加し、意識向上に努めている。	左に同じ	左に同じ		法人内では接遇研修も行っている。トイレや入浴介助が最も配慮を要す場面だが、ドアを閉める、内容を言わずに(周囲に聞こえないように)誘導をする等々、基本的なことがきちんと守られている。耳の遠い利用者にはどうしても大きな声での誘導になるが、羞恥心に配慮した声掛けを行っている。また職員同士の会話が業務上であっても利用者のプライバシーが含まれることもあり、お互いに注意を払っている。個人情報の取扱いに対する職員の意識は高く、ホーム便り等への写真掲載は本人だけではなく、一緒に写り込むかもしれない家族等にも承諾を得ている。居室の名札も同様である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の集いの時間にその日の体調を含め、一日の過ごし方について自己決定できる機会としている。思いや気持ちを表出しない方には個別に関わり、その方の気持ちに沿うよう心がけている。	左に同じ	左に同じ		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週間サービス予定表や日課表は個別に作成しているが、利用者様のその日の体調を把握した上で、体調に応じた利用者様本位の支援を行っている。	左に同じ	左に同じ		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝はポイントメイク、外出時は簡単なメイク、入浴後は化粧水など、利用者様の好むおしゃれを支援している。また外出時には普段着から外出着へ衣類の選択支援を行っている。入所前からの行きつけの理美容院へ行けるように職員が同行したり、ご家族へ協力を依頼している。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1日は赤飯を炊き、季節の山菜、旬の食材を使った献立としている。魚は鮮魚店と契約し、新鮮で種類も豊富で食べやすい形で提供している。誕生日には利用者様の好物を献立に取り入れている。料理の下ごしらえや後片付けなどは、利用者様の意志、希望を尊重し一緒に行っている。週2回の朝食時のパンを希望されない利用者様にはご飯を提供する等柔軟に対応している。	左に同じ	左に同じ	献立は、利用者に食べたいものを尋ねたり、各ユニットの担当職員が話し合っている。必要に応じて法人の管理栄養士の助言もある。利用者の好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、主食のみパンが苦手でご飯に替える人もいる。副菜については幸い該当者はなく利用者に食欲はある。形状に工夫はあるものの介助なく自分で箸を進めている。誕生日は本人がリクエストした食事とケーキが用意され、皆で当日に祝っている。利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、時折声を掛けながら自分で口へ運んでもらうよう促している。和やかな食事風景である。また行事の際にはノンアルコールの提供も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成について管理栄養士の指導は現在必要に応じて指導を貰っている。カロリーや栄養バランスには留意している。個々の利用者様の嗜好やアレルギー食材等の把握も行い配慮している。義歯の有無や状況に応じて主食の二炊きや副食のキザミ食等、摂取しやすいように支援している。食事摂取量については毎食ごとに記録に残している。水分については食事以外に10時、15時、入浴後等にお茶やコーヒー等、希望されるものを摂ってもらっている。ポカリスウェットを常備し必要に応じて摂ってもらっている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の際、義歯の装着具合や摂取状況を見ている。毎食後に歯磨きや義歯洗浄の支援も行っている。また毎食後は嗽薬でうがいをしてもらい、飲み込まれる方にはお茶を利用している。週に1回ポリドントによる義歯洗浄や歯ブラシ、コップの洗浄も行い清潔にも気を配っている。嚥下力や口の周りの筋力アップを目標に「健口体操」を行っている。	左に同じ	左に同じ		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入所から7日間と年度初めの3日間は、排尿排便の時間や性状を排泄管理表にチェックし、個別の排泄状況を把握している。誘導はさりげなく早めに声かけを行い、安易に紙おむつ等は使用せず、トイレでの排泄に向けた自立支援を行っている。	左に同じ	左に同じ	排泄に関して自立している人も若干名いる。3ユニット共に各居室にあるトイレを使う人が殆どである。そのために確認が間に合わないこともあり、当初の7日間と年度初めの3日間、またケースにより途中の把握等でパターンを知り、日々の誘導にも活かしている。本人が排泄後に記入してくれる例がある反面、終わったらプザーを押してとトイレ内に書いてはいても難しい時もある。紙パンツ類を安易に使用しないというケアの姿勢は残存能力の維持となり、入居後に改善した例もある。このことは費用負担の軽減にも繋がっている。便座回りにはひじ掛けや前方にも手摺りの設置があり、自立を補助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者様には食物繊維を多く含む食品やヨーグルトを提供し便秘予防に努めている。	左に同じ	便秘予防のため毎日屋内の散歩などの運動を取り入れている。便秘傾向の利用者様には食物繊維を多く含む食品や、自家製のヨーグルトを提供し便秘予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様に入浴時間の希望を聞き、入浴の方法や時間帯など、個人のペースで入浴できるように心掛けている。誘導時に拒否のある利用者様には声かけの工夫をしたり、時間の配慮をしている。	左に同じ	左に同じ	入浴は一日置きを目安にしているが希望があれば毎日でも可能である。一番風呂や友人同士など個々に応じた支援である。拒む人には職員の誘導テクニックで対応しているが、難しい場合や体調不良には清拭で対応している。下着の交換なども毎日行っている。シャンプー類は個人で用意しているが、これは家族に來所を促す手段でもある。季節を感じてもらえるよう冬至に柚子湯も提供している。脱衣場には安定感のある椅子を置き、冬場のヒートショック対策も行っている。脱ぎ着はできるだけ本人に任せ見守りの支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活リズムを守りつつ、年齢、身体の状態等に合わせて午睡や休息も取り入れるようにしている。一人ひとりの気持ちや意思を尊重し、休息などにも配慮している。	1日の生活リズムを守りつつ、年齢、身体の状態等に合わせて午睡や休息も取り入れるようにしている。一人ひとりの気持ちや意思を尊重し、休息などにも配慮している。寝付きの悪い利用者様にはホットミルク等の飲み物や菓子類を提供している。	左に同じ		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から薬の名前、作用、副作用などの説明書をもらい、スタッフが目を通して把握できるようにしている。処方変更や臨時薬がでた場合も説明書をもらい、効果や副作用等について伝達し把握できるようにしている。	左に同じ	左に同じ		

自己	外部	項目	外部評価 (評価機関記入欄)			
			自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	実施状況
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報をもとに本人の意思を尊重しながら役割を決めている。食事の準備、後片付け、食材の下ごしらえや、洗濯物干しやたたみ、翌日の日付交換など能力に応じ、必要に応じて見守りの中で行なわれ、役割意識が高まり喜びにも繋がっている。趣味の生け花や書道にも取り組まれている。利用者様から嗜好品の購入希望があれば代理で購入している。	ご家族からの情報をもとに本人の意思を尊重しながら役割を決めている。食後のお盆・テーブル拭き、洗濯物干しやたたみなどをされている。また翌日のメニュー書き能力に応じ見守りの中で行なわれ、役割意識が高まっている。趣味の生け花や書道にも取り組まれている。利用者様から嗜好品の購入希望があれば売店に付き添い購入してもらっている。	ご家族からの情報をもとに本人の意思を尊重しながら役割を決めている。食後のお盆・テーブル拭き、食材の下ごしらえや、洗濯物干しやたたみなどをされている。また翌日のメニュー書きや日付交換を担当してもらっている。能力に応じ、必要に応じて見守りの中で行なわれ役割意識が高まり喜びにも繋がっている。利用者様から嗜好品の購入希望があれば売店に付き添い購入してもらっている。	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝の集いで本日の予定のお知らせを行うと共に利用者様からの希望を聞く機会を設けている。天気の良い日は屋外で日光浴も行っている。また利用者様の希望があれば一緒に散歩に出かけ、地域と触れ合う機会を支援している。	朝の集いで本日の予定のお知らせを行うと共に利用者様からの希望を聞く機会を設けている。天候や気温等、条件が揃えば屋外散歩を行っている。天気の良い日は屋外で日光浴も行っている。	左に同じ	本人から外出の希望が出ることは少ないが、話題を振れば興味を示してくれる。恒例のバスレクは家族の参加もあり好評である。年間を通して季節毎の花見ドライブも計画されている。広い敷地内には様々な施設もあり、その中には売店や喫茶店もあって近場での憩いの場となったり楽しみにもなっている。森林の中に整備された歩道は、程好い坂道となっており職員と一緒に散歩コースでもある。天候や体調をみながら散歩に出ることや、屋外へ出て日光浴だけでもと努めている。全く外に出ないという利用者はいない。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の中で金銭の所持を希望される方、ご家族の理解や協力が得られる方は金額を考慮した上で所持されている。所持されている方は、祐徳稲荷神社参拝や初詣の際にお賽銭をあげられている。毎週日曜日に小遣いを現金出納帳の残高と現金を本人に確認してもらいお金に触れる機会を作っている。	左に同じ	利用者様の中で金銭の所持を希望される方、ご家族の理解や協力が得られる方は金額を考慮した上で所持されている。法人内の売店での買い物、理容室で直接お金を支払う方もおりお金に触れる機会を作っている。	

自己	外部	項目	外部評価 (評価機関記入欄)				
			自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	実施状況	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に設置してある公衆電話をいつでも使用できるようにしている。また金銭を所持されていない利用者様がご家族への電話を希望された場合は、事業所から取り次ぐなどの支援を行っている。利用者様が活動で作成したはがきを利用して年賀状や暑中見舞、絵手紙を出している。	左に同じ	左に同じ		次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋建てのホールの天井は吹き抜けで、囲炉裏があり古民家風の建物である。窓は大きく日光は十分に取り入れられる。照明は明るすぎないように調整され、窓には内側に全て障子風の二重戸にし、落ち着いた家庭の雰囲気を感じられるよう工夫している。	玄関には季節の花や置物を飾り、和めるような雰囲気作りをしている。食堂や廊下にはクラフトの時間に全員で作成した作品を掲示している。ホーム内の壁は茶色を基調とした配色で、ドアは障子風のデザインとし家庭の雰囲気を感じることができるよう工夫している。	左に同じ	3ユニットは1対2で全く違う建物にある。平屋の古民家風に設計された千寿荘側は大きな囲炉裏が特長である。共通している点は窓やサッシ戸にはカーテンではなく障子という設えや、懐かしい風情が感じられる居室ドアである事、深いブラウンの落ち着いた色調で統一されている事等々が挙げられる。それぞれ換気にも配慮し、利用者が手を触れる箇所の消毒は一日2回、こまめに行っている。廊下に歩行を妨げる物はなく、寿側ではその先に置かれた長椅子で語り合う様子も見られる。各人が好みの場所を過ごす利用者を職員は見守っている。またモップ等で掃除を手伝う利用者もあり、役割りとしてお願いしている。浴室等はきれいに掃除され不快な臭いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには植木や本棚等を置いてある事で個々の利用者様がそれぞれに楽しまれている。植物が好きな方はご家族が持ってこられた物を居室に置き楽しまれている。日光に当てたり水遣りを日課にされている。長ソファを置いたりして、居場所作りを意識した環境的配慮を心掛けている。	ホールには植木や本棚等を置いてある事で個々の利用者様がそれぞれに楽しまれている。植物が好きな方はご家族が持ってこられた物を居室に置き楽しまれている。3~4人掛けのソファを廊下に置き、複数の利用者様が一緒に過ごせるスペースを作るなど環境的配慮を心掛けている。	ホールには植木や本棚等を置いてある事で個々の利用者様がそれぞれに楽しまれている。植物が好きな方はご家族が持ってこられた物を居室に置き楽しまれている。利用者様によっては隣のユニットのソファに座り交流を深められている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名/A)	自己評価(ユニット名/B)	自己評価(ユニット名/C)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の希望で使い慣れた寝具類を持ち込まれている方もおられる。また個人のTVや家具、趣味や好みの物を持ち込まれ楽しんでおられる方もいる。	居室には利用者の希望で使い慣れた寝具類を持ち込まれている方もおられる。また個人の好みの物を持ち込まれ楽しんでおられる方もいる。	居室には利用者の希望で使い慣れた寝具類を持ち込まれている方もおられる。また個人のTVや家具、趣味や好みの物を持ち込まれ楽しんでおられる方もいる。	火気等の危険物以外に持ち込む品物への制限はない。職員と一緒に掃除を手伝う利用者もある。3ユニット共に各居室にはトイレや洗面台があり、毎朝の掃除や汚れを見つけた時にも丁寧に行っている。それぞれに押入れ・クローゼットがあり収納箇所があることで整理整頓が出来ている。家族の写真を飾ったり、書道の作品を飾るなど居心地良く過ごしてもらえよう配慮している。担当職員が主となり季節の衣替え等の手配も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、床は衝撃吸収フローリング床を使用し、老人カー使用の利用者や歩行が不安定な利用者にもやさしい造りになっている。食堂など共用の場所には囲炉裏があり、床に座り足を降ろしてゆっくりできる。また能力的に難しい方には椅子もあり、極力残存能力を活かした自立支援を行っている。居室の入口には本人の家紋と表札を設置し、自分の部屋という認識をしてもらい安心して生活してもらえるようにしている。	建物内部はバリアフリーで、床は衝撃吸収フローリング床を使用し、老人カー使用の利用者や歩行が不安定な利用者にもやさしい造りになっている。介助歩行や見守りの必要な利用者様は、食堂など共用の場所に近い所を居室とし、極力残存能力を活かした自立支援を行っている。居室の入口には本人の家紋と表札を設置し、自分の部屋という認識をもらい安心して生活してもらえるようにしている。	左に同じ		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください			
		ユニットA	ユニットB	ユニットC	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
					2. 利用者の2/3くらいの
					3. 利用者の1/3くらいの
					4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	○	1. 毎日ある
					2. 数日に1回程度ある
					3. たまにある
					4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)				1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	○	3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果			
		↓ 該当するものに○印をつけてください			
		ユニットA	ユニットB	ユニットC	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	○	1. ほぼ全ての家族と
					2. 家族の2/3くらいと
					3. 家族の1/3くらいと
					4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	○	1. ほぼ毎日のように
					2. 数日に1回程度ある
					3. たまに
					4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	○	1. 大いに増えている
					2. 少しずつ増えている
					3. あまり増えていない
					4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	○	1. ほぼ全ての職員が
					2. 職員の2/3くらいが
					3. 職員の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが
					4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
					2. 家族等の2/3くらいが
					3. 家族等の1/3くらいが
					4. ほとんどいない